

小玉スイカ

大玉トマト&小玉スイカ

放送 Eテレ 5/5 (日)

再放送 Eテレ 5/9 (木)

小玉スイカのいろいろ

果肉の色は赤、黄色、オレンジ色など。外見は縞模様のほか、黒や明るい黄色、楕円形などがあり、選ぶ楽しみもいっぱい!

スタンダードな赤肉タイプ。



ラグビーボールのような形がユニーク。



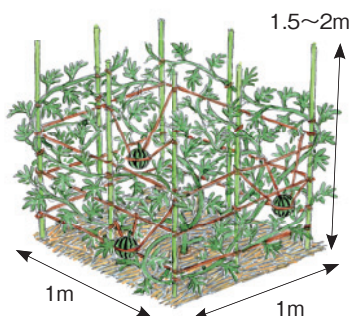
鮮やかな黄色の果肉が印象的。



菜園で目を引く黄皮の小玉スイカ。中身は赤色。



1m×1mの省スペースで、3〜4個の収穫を目指す!



狭い場所でも立派なスイカが作れる!

つるを支柱に絡ませて育てる立体栽培なら、限られたスペースでも十分に栽培可能。立派なスイカを作るには、つるをぐんぐん伸ばして光合成を促すことが重要です。



ミニサイズがおすすめ!

重さ1.5~2kgの小玉品種を育てよう

つるを支柱に誘引する今回の栽培は、スイカが空中に実るので、重みで枝が折れないように小玉品種を選ぶのがポイント。

中間地

1月				
2月				
3月				
4月				
5月				
6月				
7月				
8月				
9月				
10月				
11月				
12月				

植えつけ
摘心・整枝・誘引
人工授粉
摘果
収穫

暖地 寒冷地

1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				

植えつけ
収穫
植えつけ
収穫



植えつけ適期の苗

苗は本葉4~5枚で節間が詰まったものを選ぶ。価格は高めだが、丈夫なつぎ木苗がおすすめ。

1

5月上旬~下旬

植えつけ

鞍つき畝を作って 苗を植えつけよう



1

穴を掘って元肥をまく

酸度調整 (p.73) を済ませた栽培スペースの中央に、直径、深さともに30cmの穴を掘る。穴の中に、完熟牛ふん堆肥3ℓ、化成肥料30g、熔リン10gを入れる。



2

畝を作る

穴に土を埋め戻す。その上に高さ20cm、直径30~40cmの小山を作り、頂上を平らにする。



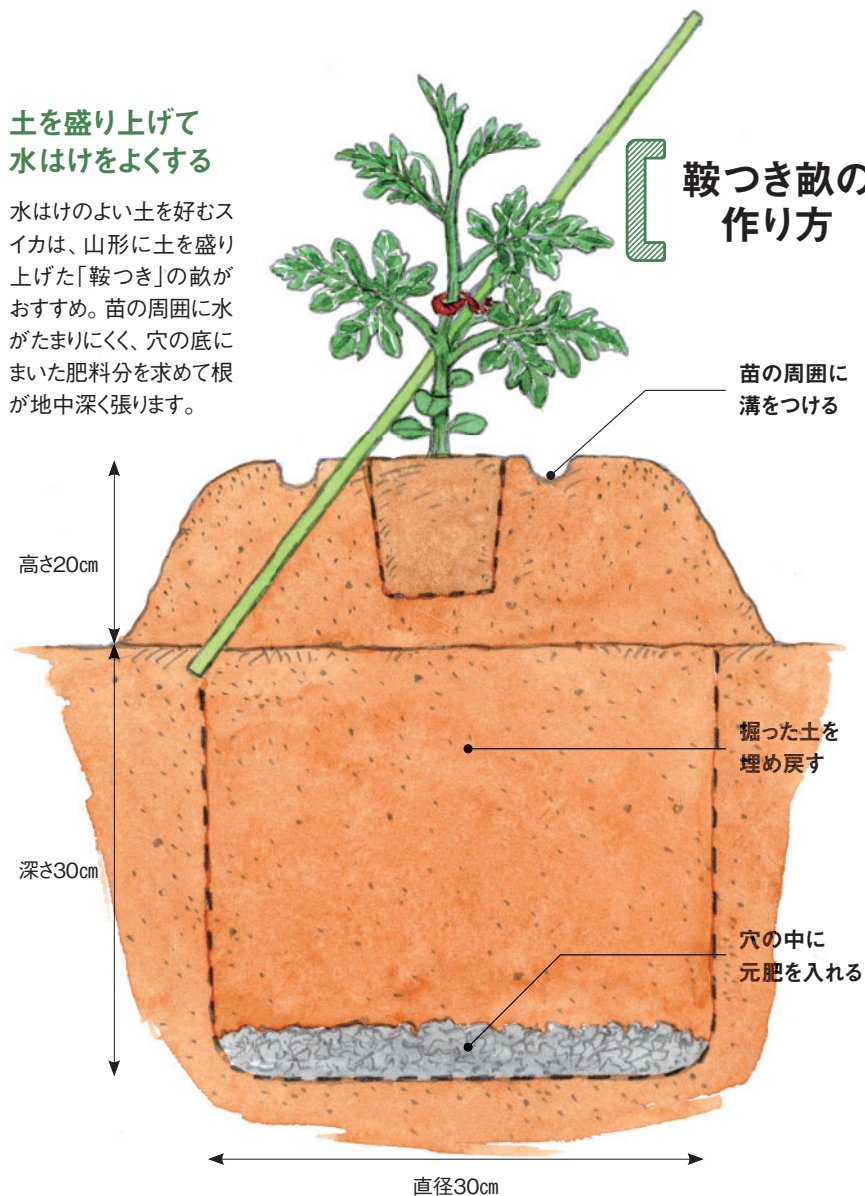
3

苗を植えつける

中央に植え穴をあけて水を注ぎ込み、水が引いたら苗を植えつける。苗の周囲を指で円くなぞり、浅い溝をつけてから、再びたっぷり水やりを。水がゆっくりしみ込んで根の周囲に水が回り、根張りがスムーズに。

土を盛り上げて 水はけをよくする

水はけのよい土を好むスイカは、山形に土を盛り上げた「鞍つき」の畝がおすすめ。苗の周囲に水がたまりにくく、穴の底にまいた肥料分を求めて根が地中深く張ります。



鞍つき畝の 作り方



仮支柱を立てて敷きワラをしよう

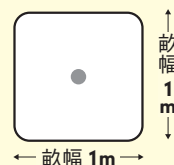
植えつけ後は、苗のわきに60~70cmの細い支柱を斜めにさして固定し(仮支柱)、株の周囲にワラを敷こう(敷きワラ)。ワラは雑草が生えるのを防ぐほか、雨による土砂のはね返りを防いで病気を軽減する効果がある。

DATA

📍 原産地 南アフリカ
 ★ 科名 ウリ科
 🔄 連作障害 あり(5年あける)
 🐛 病害虫 アブラムシ、ウリハムシ、ハダニ、うどんこ病など

💧 土壌酸度 pH5.5~6.0
 🌡️ 生育適温 25~30°C
 🌱 発芽適温 25~30°C
 🕒 植えつけから収穫まで 約2か月

▶ 栽培スペース
 畝の長さは自由
 株のサイズ
 株の広がり/1m
 草丈/1.5~2m



収穫までの 管理・作業



2

5月上旬～下旬

支柱立て

支柱を立てて ひもを張ろう

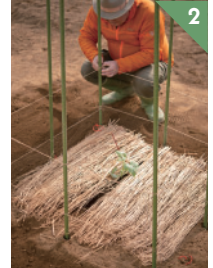
支柱立て

栽培スペースの周囲に、長さ240cmの支柱を50cm間隔で8本、垂直に立てる。



ひも張り

地上から5～10cmの高さに水平にひもを張り巡らす。2段目以降は20～30cm間隔でひもを張る。



◀ひも張りの際は、支柱にぐるりと巻きつけて、ずれ落ちを防止。



つるの伸びに合わせて、上段のひもを追加しましょう。

誘引しよう

伸びた子づるは、麻ひもで支柱やひもに結びつける(誘引)。つるどうしが重ならないように四方に振り分けるのがコツ。



6月上旬～

追肥

養分を
チャージして
実を太らせよう

植えつけの1か月後から2週間に1回、化成肥料30g/m²をワラの上から追肥する。

6月中旬～

人工授粉

花粉の
鮮度が高い
朝の9時までに
行おう



雌花が咲いたら、朝9時までに雄花を摘み取って花びらを取り除き、花粉を雌へにこすりつける。受粉日を記したラベルをつけて。

6月下旬～

摘果

摘果して1つに
1個残そう

子づる1本に2個以上の実がついたら、形のよい実を1個残し、ほかは小さいうちに摘み取る。



6月下旬～

吊り玉

実の重みを
ネットで
支えよう

実の重みでつるが折れないように、ネットなどを支柱に結びつけて吊り玉状に支える。

7月上旬～8月中旬

収穫

完熟を待って
収穫しよう

完熟の目安は、開花から35～40日後。周囲の巻きひげが枯れてくるのも目安になる。



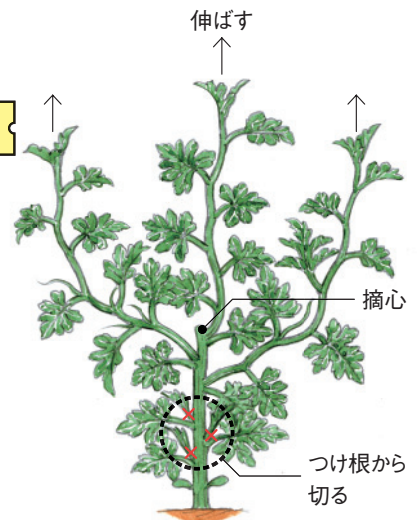
3

5月下旬～

摘心・整枝・誘引

親づるを摘心して 子づる3～4本を 伸ばそう

果実は親づるよりも子づるや孫づるに多くつくので、親づるが本葉5～6枚のころ、先端をハサミで切る(摘心)。子づるが伸びてきたら、元気のよいつる3～4本を残し、ほかはつけ根から切り取る(整枝)。



収穫までの管理作業は、次号以降の「今月の作業」でも紹介します。